



豪雨災害の爪痕

7月12日の豪雨により、飯南町ふるさと森も甚大な被害に見舞われました。森のホテルもりのすに向かう道中も、道路の崩落や川の地形変化など、「一日でここまで変わってしまうのか」と驚きました。

セラピーロードでは、チップの流出等はありませんが、幸い大きな被害もなく、早急に現場確認をしたことで、現在は安全に散策できます。自然が相手の森林セラピーですが、自然の猛威を痛感した出来事でした。

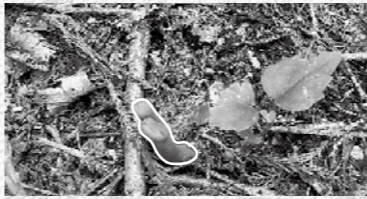
珍しいキノコたち

豪雨災害後、森には珍しいキノコたちも顔をのぞかせました。その一つが「タマゴタケ」。森林セラピーロード開設後には、時々見られたのですが、近年は土壌の成分が変わったのか、見る機会は少なくなりました。その名の通り、タマゴのような外被膜で覆われていて、上部が裂開し、傘が伸びます。見た目は毒キノコのように思われるかもしれませんが、非常に旨味が強く、ヨーロッパでは高級食材として重宝されているそうです。

もう一つは、以前にも紹介した「カエンタケ」です。こちらは打って変わって猛毒キノコ。世界の毒キノコでも3本の指に入るそうです。触れただけでも皮膚が爛れる恐ろしいもので、解毒剤も開発されていません。今回はガイド中にお客さまが見つけてくださり、早急に排除できました。森も生き物、日々変化していきます。上手に付き合いつながりながら森の癒しを届けていきたいと思えます。



タマゴタケ



カエンタケ

「福島文庫」はじめました。読まなくなった本をお譲りください

赤名郵便局の隣にある地域交流施設「福島邸」は、和室2部屋(8畳)、洋室1部屋(8畳)、茶室(5畳)、玄関ホール(12畳)がある古民家です。現在は「長生き体操」「オレンジカフェ」寄ろうでえー！赤名川「地域サロン」、書道教室などの習い事や同窓会など、さまざまな用途で使われています。

そんな福島邸では、「多くの人に気軽に立ち寄ってもらいたい」という想いで、「福島文庫」を開設しました。「福島文庫」は皆さんからのご寄贈により運営しています。読まなくなった本があれば、ぜひお譲りください。本のジャンルは次のとおりです。

- 本のジャンル(3つに限定)
 - ・コミック誌(全巻揃ってなくてもOK)
 - ・絵本
 - ・小説
- 本の引渡方法
 - ・赤名農村環境改善センターか福島邸に持参
 - ・自宅での引渡(ご自宅まで引き取りに伺います。下記までご連絡ください)



多くのご利用お待ちしております



飯南町民は無料で利用できます(*営利活動は有料)

■問合せ
赤名地区集落支援員(金藤)
76・3100

短歌

頓原公民館短歌教室 七月詠草

「広報い〜なん」二〇〇号を記念して

ふるさとに輝き与えて二百号いよよ羽ばたけ「い〜なん」高く！
 心地よく住民と馴染んで二〇〇号郷の栄えも光あまねく 鳥田 勝信

い〜なんの昨日と明日をつなぐ誌は高み目指して今二〇〇号 塩田美代子 徳則

何時しか口に馴染みし「広報い〜なん」メ縄と共に津々浦々へ 千葉トミエ

短歌学び三百回目の教室は「い〜なん」二百号共に寿ぐ 石川 隆

朝毎に畳の上の古い二人この寂しさをどう変える 岡田 繁富

車押す吾が影ふみて坂上る八十五歳のち哀しき 景山サチ子

朝日照る青い丸葉に蒸だんご祖母の手作り霞の中に 景山 稔

風鈴のやさしい音色心地よくレースのカーテンも風にふくらむ 景山 牧栄

幼子はスマホの時代携帯に電話のひ孫顔見えないと 片岡 千鳥

赤い実を食べても赤くならぬ鳥ひよひよいと啼き渡りゆく 藤原 正

雨蛙ひよいと飛び乗る植木鉢丹精のぐみ見に来し父か 本間 啓美

農協の葉屋さんの入れ替えは急な大雨戸惑うばかり 三上 朋子

苗植えて大きく育ち実をつけしトマトを想い追肥、水やる 山本 正敏

今日の表紙

飯南高校の屋上で満面の笑みを浮かべるのは、神楽愛好会主将の神在紗那さん(3年生)。小学生になる前から、お父さんが所属する神楽団で神楽に触れ、中学校2年生の頃、お父さんと同じ神楽団に入団しました。

これまで続けてきた大好きな神楽。神在さん自身、2度目の神楽甲子園では、「須佐之男命が疫病を退



治する物語」を披露しました。その姿は、新型コロナウイルス感染症だけでなく、7月豪雨で大きな被害を受けた飯南町にもメールを送っているようでした。(45pに関連記事)

今日の人権標語

「家族でつくる人権標語」優秀作品から

色とりどり
いろいろな個性が
あふれるよ

赤来中1年 宇治田 愛夢さん
家族名 宇治田加代子さん

標語に込められた思いを町民みんなで意識し、差別や偏見のない明るいまちづくりをめざしましょう。